

農業委員会だより

北上市農業の向上のために 提言書を市長に提出

市農業委員会は10月7日、農業施策に関する提言書を伊藤市長に提出しました。この提言書は、農業委員が日々の活動の中で農業者からの声を取りまとめ、9月の総会で決定したものです。

提言項目は次の通りです。

- 「(仮称)管農指導センター」の設置
- 担い手の育成及び就農支援
- 農家所得の安定対策に向けた取り組み
- ①戸別所得補償モデル対策の拡充②転作田を活用した所得向上策
- 耕作放棄地の再生利用に向けた復元助成措置
- 食育の推進及び地産地消の拡大
- ①幼少期からの食育推進②地産地消の拡大に向けた体制③地場農産物の



提言書内容を説明する八重樫会長
(右から2番目)

- 販路拡大に向けた取り組み
- 地域特性を活かした農業振興
- ①新たな重点品目の創出②6次産業の推進③土地改良事業予算の確保④グリーン・ツーリズムの推進

食と農から地域を元気に 第20回きたかみ農業フ ォーラム開催

食と農の一体性について理解を深め、農業の振興策を考えるために第20回きたかみ農業フォーラムは11月27日、日本現代詩歌文学館で行われました。

農家の皆さんや農業関係者、消費者など200人が参加。八重樫彰会長の主催者あいさつに続いて農業者表彰、青年農業者表彰が行われ、4人に表彰状と記念品が贈られました。基調講演では、農業ジャーナリス



活気ある地域農業の振興策を講演した榊田氏

トの榊田みどりさんから「食と農を軸にしたたまちづくり」と題して、農業を取り巻く厳しい環境の中で「地域」をキーワードにした食と農の再構築の視点から各地の実践事例などを紹介。地域農業のビジネス化、消費者を受け入れる農園での農業体験や農家民宿のおもてなしツアー、6次産業化など食農教育や交流で消費者を味方にする努力が必要で、地域経済を潤すしくみを考える時代であることを強調していました。

活動事例発表では、北上調理師会名産開発部長の岡島親吾さんが「北上コロッケ」創作のきっかけやB級グルメ大会参加などを通しての地域おこしについて、遠野市の加工グループみつ葉のクローバー代表の菊池ユウさんが手作りパンや餅、旬のものを産直や訪問販売で、売り上げを伸ばしていること、奥州市の農事組

農業者表彰・青年農業者表彰 おめでとうございます



農業者表彰【個人】
高橋豊廣さん
(相去町・62歳)



農業者表彰【個人】
柴田敏男さん
(和賀町岩沢・67歳)



農業者表彰【個人】
小田島俊夫さん
(和賀町岩崎・61歳)



青年農業者表彰
菊池修二さん
(滑田・36歳)

合法人「まだ来ずた」代表の千田由美さんが農家レストランで大豆を活用したヘルシーメニューを取りそろえ好評であることが話されました。

その後、会場からの質問として、北上地方生活研究グループ連絡協議会から「学校給食への食材の納入の取り組みや課題」が出され、コメントーターの榊田さんはほかの地域の事例を交えてアドバイスをし、地域食材の活用を奨励していました。

(農業委員 高橋 マサ子)

地産地消を高めるために 東北管内先進地を視察

地産地消を推し進め市内小学校給食への地場産物利用度を更に高めるための視察研修は9月14日・15日、山形県鶴岡市の「サンサン畑の会」な

■審議データ

農地の権利移転・利用権設定等審議内容

農地法	上段 審議件数		下段 面積(m ²)
	9月	10月	
3条	6	2	1
	47,121	174	71,035
4条	0	4	3
	0	2,198	1,374
5条	11	117	3
	4,736	455,439	1,488
適用外証明	3	4	0
	666	1,274	0
農用地利用集積計画	0	2	17
	0	8,037	95,845

- ◎農地法3条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合
- ◎農地法4条…自己所有農地を転用する場合
- ◎農地法5条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転して転用する場合
- ◎農地法適用外証明…農地を20年以上他の目的に使用しており農地の復元が不可能な場合
- ◎農用地利用集積計画…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合で受け手側が大規模農家の場合

■これからの主な行事

- 1月25日(火) 農政・農地部会、総会
- 2月21日(月) 農政部会
- 2月22日(火) 農地部会
- 3月23日(水) 農政・農地部会、総会

農業委員会ニュース

第55回岩手県農業委員大会は11月11日、盛岡市キャラホールで行われました。当委員会が活動記録と農業者年金部門で表彰を受けたほか、長年にわたり農地法などの適正処理、農政推進などに尽力し、農業の発展と農業者の社会的経済的地位の向上に寄与された委員が表彰されました。

◇永年勤続農業委員表彰

- 上野 温 氏(前農業委員)
- 菊池 和雄 氏(同)
- 高橋 善郎 氏

◇活動表彰

- 駒込 昌平 氏(活動記録部門)
- 高橋 善郎 氏(同)
- 松田 繁 氏(農業者年金部門)

渡邊さんは、各地に出掛け山菜栽培の普及活動に取り組み、自らもトラボ、ワラビの栽培を手掛けています。「農閑期といわれる時期の収入確保をいかにするかで、担い手が育



農閑期の山菜栽培にわたしが一肌ぬぎます！
渡邊 啓三さん
(65歳・北鬼柳)

つかが分かれ目」と話し、多くの農家が抱えるこれらの課題に「山菜栽培も一考」と勧めています。「山菜の栽培は軽労働で、未利用地にも栽培できる。初冬から早春にかけての作業で高収入が得られ、水田作業と競合しないことが最大の魅力」と話しています。特にトラボ栽培は、一年で約2倍になる木を伐採して芽を残した節目で小分けし、ハウスなどで水耕。4月上旬の出荷で収入が得られ、100㎡規模で取り組む人もいます。ゼンマイ、ワラビも栽培するのなら、6月末ごろまで収穫が続き、収入が期待できる。行者ニンニク、ウルイ、シドケなどの栽培指導にも一肌ぬいで、喜んで引き受ける」と話していました。

(農業委員 高橋 弘)

「山菜の栽培は軽労働で、未利用地にも栽培できる。初冬から早春にかけての作業で高収入が得られ、水田作業と競合しないことが最大の魅力」と話しています。特にトラボ栽培は、一年で約2倍になる木を伐採して芽を残した節目で小分けし、ハウスなどで水耕。4月上旬の出荷で収入が得られ、100㎡規模で取り組む人もいます。ゼンマイ、ワラビも栽培するのなら、6月末ごろまで収穫が続き、収入が期待できる。行者ニンニク、ウルイ、シドケなどの栽培指導にも一肌ぬいで、喜んで引き受ける」と話していました。

参加した委員は「給食での地場産

で行いました。研修は、鶴岡市藤島庁舎産業課工コタウン室の井上さんから「サンサン・畑の会」の学校給食における地産地消の取り組みなどの説明を受けました。「サンサン畑の会」は、安全でおいしい野菜を提供するため、畑を耕す会や平飼有機卵生産者グループなどと連携を図り、藤島の将来を担う子どもたちに地元で生産された農産物を食べてもらおうと、平成14年に結成。藤島町ふれあい食センターに安定した納入が図られるよう会員ごとに年間野菜納入計画書や組織全体の納入計画書を作成し、これに基づきセンターでは毎月の献立を作成。課題は数量、品目に伸び悩み、冬場の野菜確保、規格品の確保、生産者の拡大などがあるとのことでした。



学校給食への地場農産物の納入状況を熱心に聞く農業委員

割合も高く、品目も多いことから評価できる。北上市としての取り組みについては、給食数も多く、安定供給のために、農産物生産者や給食センターと十分協議しながら供給組織の構築が必要である」と話していました。

(農業委員 佐藤 良二)